学校番号	T0204

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	新家庭総合「パートナーシップでつくる未来」　（実況出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭生活に関心を持ち、積極的に取り組みましょう。
・生活の様々な現象やワークショップ・演習などを通して考え、理解を深め知識を身に付けます。友達の考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えを持ちましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、より良い生活を目指します。

２　学習の到達目標

人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義・家族・家庭と社会及び福祉との関わりに消費生活、持続可能な社会環境などについて理解する。
生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身に付ける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族･家庭及び福祉、消費生活、持続可能な社会などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族･家庭及び福祉、消費生活、持続可能な社会などについて生活の充実向上を図るための課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、持続可能な社会などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、持続可能な社会などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 体験実習記録表 レポート、発表 自己評価　　等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 体験実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作品、観察記録表 レポート、発表 定期考査、実技テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表 観察記録表 レポート、発表 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	○家庭科の学び方 ○自分を見つめる ○自立した生き方 ○共に生きる家族、家族に関する法律 ○私たちの生活を支える労働と生活時間 ○ホームプロジェクト	・学習の意義や内容、学習、評価方法				○	A：現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲をもって取り組もうとしている b:自分の近い将来についてのキャリアや生活についての設計を考え、ワーク等を用いてそれらを具体的に描いていくことができる。 c:自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 d:青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解できる。	・業観察 ・ワークシート
		・自己を知る ・生涯発達の視点	○	○	◎	○		
			○	○		○		
		・青年期をどう生きるか	◎	○	○	○		
		・家族法の理念と背景	○	○		◎		
		・多様化する就業形態 ・将来の生活を展望する	○	◎		○		
		・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について説明				◎		

	○子どもを知る ○発達のすばらしさ ○子どもの生活 ○親になることを考えよう ○ホームプロジェクト	・健やかな育ちのために ・人の発達と保育 ・子どもの成長と生活 ・子どもを生み育てるということ ・プロジェクト学習を計画し、夏季休業中に実践する。	◎ ○ ○ ○ ◎	○ ○ ◎ ○ ○	○ ◎ ○	○ ◎ ○ ○ ○	a:子どもの発達と保育について興味・関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して意欲的に学習に取り組もうとしている。 ホームプロジェクトに興味・関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して意欲的に計画を立てている。 b:抱っこ人形を使った体験学習などから、目的の設定、学習中の判断や学習後の考察などをまとめることができ、また体験学習の成果や反省などについて、レポートを通して表現することができる。 c:子どもと適切に関わることが出来たり、子どもの健やかな発達を支える技術を身に付けている。 d:生命の尊さ、子育ての意義について理解し、子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身に付けている。	

後期	○健やかに育つ環境 ○ホームプロジェクトの提出	・子どもの権利と福祉 ・ホームプロジェクトの提出内容をもとに発表の準備	○ ○	◎ ◎	○	○	a:子どもを取り巻く現状、について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。 B:子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 ホームプロジェクトの内容　が問題解決学習となっている。 c:子どもの生活や取り巻く環境、また、現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 d:子どもの発達段階において、子どもを取り巻く人との関わり、環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。	・受講状況 ・学習意欲 ・プリント ・レポート ・定期考査

○高齢社会に生きる私たちの暮らし ○高齢者を知る ○高齢者の自立のために私たちができること	・高齢社会の状況	○	○		◎	a:高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。 b:高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 自分の生活を見直し、自分自身の生活能力を高めることにつながるよう実践したホームプロジェクトの発表内容になっている。 c:日常生活の基本的な介助の方法や高齢者に対する接し方などを、インスタントシニア体験実習を通して身に着けることができる。 d:高齢社会の現状や高齢者の心の特徴について理解している。	・受講状況 ・学習意欲 ・実習取組 ・プリント ・レポート・定期考査
	・高齢者の心身の変化 ・高齢者の課題	○	○	◎	○		
	・介護の心と介護技術 ・高齢者の生活を支える介護	○	◎	○	○		
	・ホームプロジェクトの発表・相互評価	○	◎	○	○		

	○消費者行動と意思決定 ○社会の変化と消費生活 ○ライフステージと経済計 ○持続可能な社会環境と生活	・:適切な選択をするために ・適切な契約 ・人生設計と経済計画 ・持続可能な社会に向けて	○ ◎ ○ ○	○ ○ ◎ ○		◎ ○ ○ ◎	a:自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入の在り方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。 b:消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 c:様々な情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。 d:消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解ができ、また契約についての知識を身につけている。 e　環境への負荷を減らした環境型社会、地球温暖化に対応した炭素社会の意向け、私たちの身近な事例を学びながら、生活においてどのような取り組みをすべきかを考え、判断し実行に移すことができる。	・受講状況 ・学習プリント ・プリント ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。